

県立高等学校の今後の在り方に関するアンケート 集約結果

- 実施年月
平成29年11月

- 対象者
県内市町村立中学校 校長・PTA会長

- 回答数
校長97名（回答率94.1%）
PTA会長79名（回収率76.7%）

- 質問内容
県立高等学校の特色化の方向性（4問）
県立高等学校のさらなる特色化に向けた具体策（4問）
県立高等学校の適正配置に関する考え方（3問）

1 次の各項目について、「県立高等学校の特色化の方向性」として重要であると思いますか。

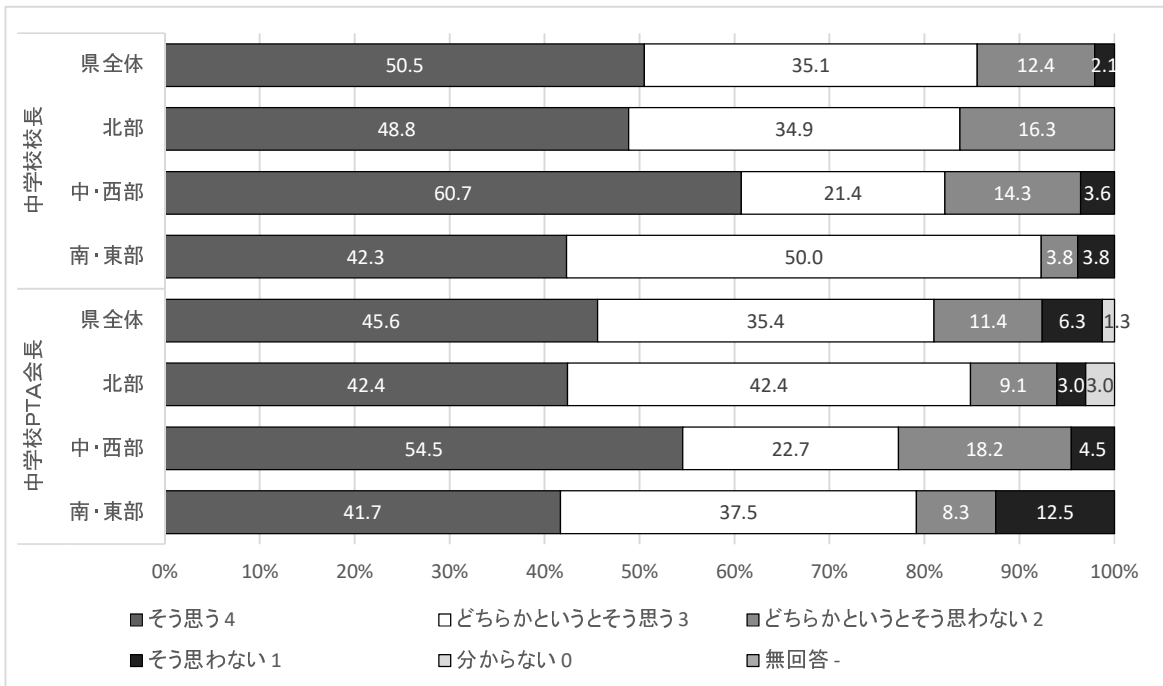
(1) 職業に関する科目が充実しており、専門的な技術や資格が取得できること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、85%以上が「専門的な技術や資格が取得できること」を大切と考えている。特に南・東部でその傾向が強い。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、80%以上が「専門的な技術や資格が取得できること」を大切と考えている。中・西部と南・東部で70%台とやや低くなっている。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と そう思う 3	どちらかという と そう思わない 2	そう思わない 1	分からない 0	無回答 -
中学校校長	県全体	97	49 50.5	34 35.1	12 12.4	2 2.1	0 0.0	0 0.0
	北部	43	21 48.8	15 34.9	7 16.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中・西部	28	17 60.7	6 21.4	4 14.3	1 3.6	0 0.0	0 0.0
	南・東部	26	11 42.3	13 50.0	1 3.8	1 3.8	0 0.0	0 0.0
中学校PTA会長	県全体	79	36 45.6	28 35.4	9 11.4	5 6.3	1 1.3	0 0.0
	北部	33	14 42.4	14 42.4	3 9.1	1 3.0	1 3.0	0 0.0
	中・西部	22	12 54.5	5 22.7	4 18.2	1 4.5	0 0.0	0 0.0
	南・東部	24	10 41.7	9 37.5	2 8.3	3 12.5	0 0.0	0 0.0

上段：回答数、下段：回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

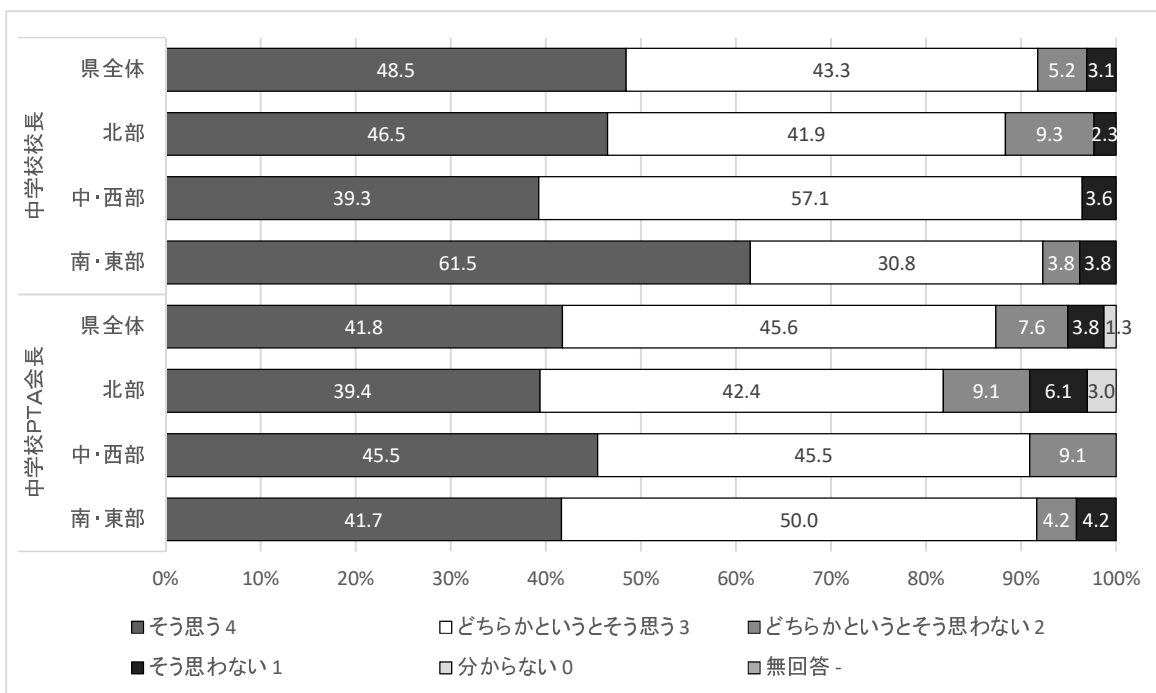
(2) 多様な科目が開設されており、興味や関心のある事柄を学べること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、90%以上が「興味や関心のある事柄を学べること」を大切と考えている。特に中・西部でその割合が高い。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、85%以上が「興味や関心のある事柄を学べること」を大切と考えている。中・西部と南・東部は、90%以上と、その傾向が強い。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と そう思う 3	どちらかという と そう思わない 2	そう思わない 1	分からない 0	無回答 -
中学校校長	県全体	97	47	42	5	3	0	0
	北部	43	20	18	4	1	0	0
	中・西部	28	11	16	0	1	0	0
	南・東部	26	16	8	1	1	0	0
中学校PTA会長	県全体	79	33	36	6	3	1	0
	北部	33	13	14	3	2	1	0
	中・西部	22	10	10	2	0	0	0
	南・東部	24	10	12	1	1	0	0

上段：回答数、下段：回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

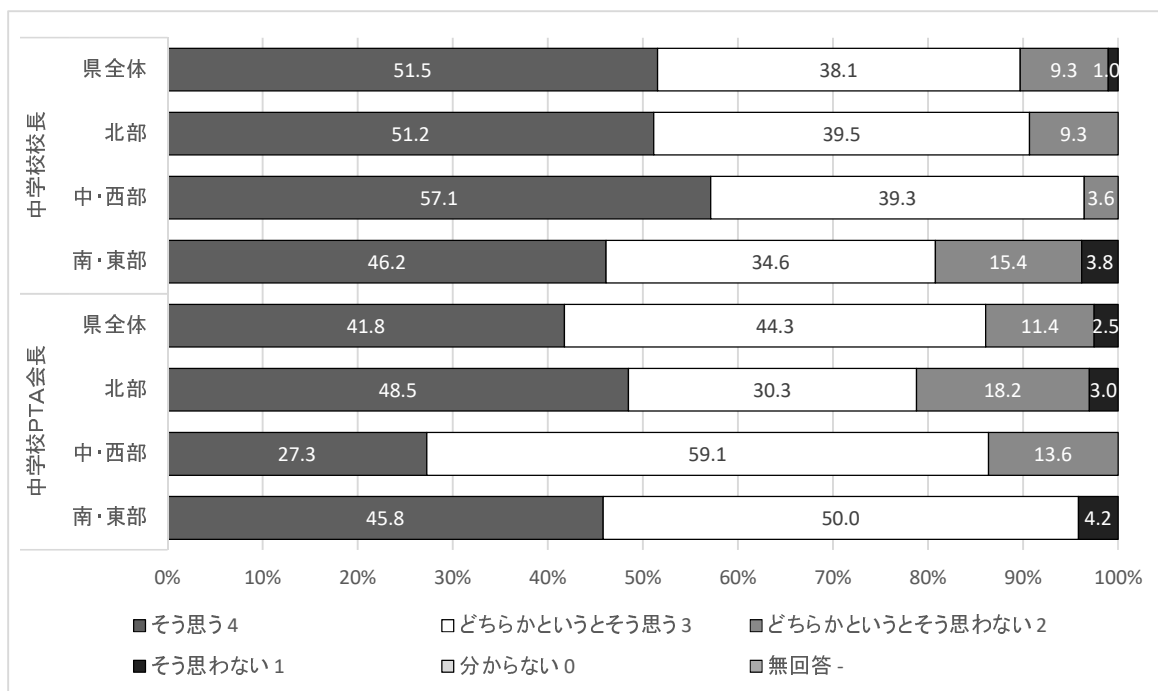
(3) 生徒の目指す進路と明確に結びついた類型・コースが設置されており、基礎的な事項を幅広く学べること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、約90%が「基礎的な事項を幅広く学べること」を大切と考えている。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、85%以上が「基礎的な事項を幅広く学べること」を大切と考えている。南・東部は、95%以上と、その傾向が強い。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と思う 3	どちらかという と思わない 2	そう思わない 1	分からない 0	無回答 -
中学校 校長	県全体	97	50 51.5	37 38.1	9 9.3	1 1.0	0 0.0	0 0.0
	北部	43	22 51.2	17 39.5	4 9.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中・西部	28	16 57.1	11 39.3	1 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	南・東部	26	12 46.2	9 34.6	4 15.4	1 3.8	0 0.0	0 0.0
中学校 PTA 会長	県全体	79	33 41.8	35 44.3	9 11.4	2 2.5	0 0.0	0 0.0
	北部	33	16 48.5	10 30.3	6 18.2	1 3.0	0 0.0	0 0.0
	中・西部	22	6 27.3	13 59.1	3 13.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	南・東部	24	11 45.8	12 50.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	0 0.0

上段：回答数、下段：回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

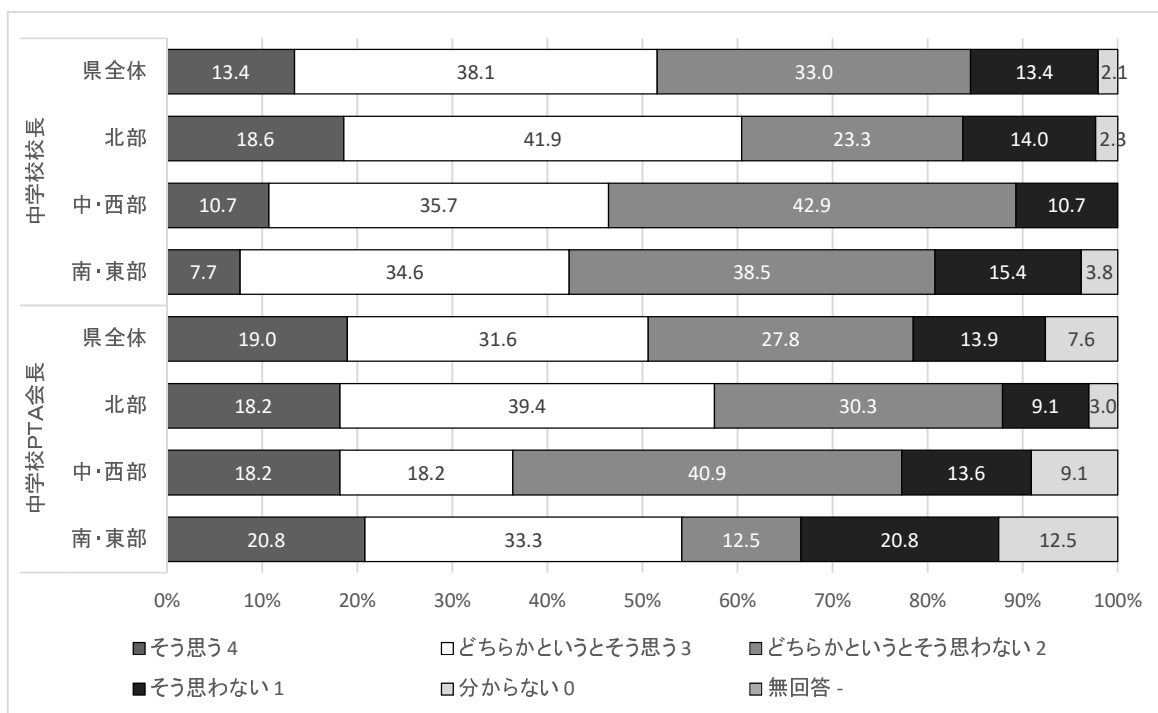
(4) 時間割が各自柔軟に組めるなど、自分の生活スタイルやペースに合わせて学べること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、50%以上が「自分の生活スタイルやペースに合わせて学べること」を大切と考えている。北部において、その割合が高い。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、50%以上が「自分の生活スタイルやペースに合わせて学べること」を大切と考えている。北部、南・東部において、その割合が高い。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と思う 3	どちらかという と思わない 2	そう思わない 1	分からない 0	無回答 -
中学校校長	県全体	97	13	37	32	13	2	0
	北部	43	8	18	10	6	1	0
	中・西部	28	3	10	12	3	0	0
	南・東部	26	2	9	10	4	1	0
中学校PTA会長	県全体	79	15	25	22	11	6	0
	北部	33	6	13	10	3	1	0
	中・西部	22	4	4	9	3	2	0
	南・東部	24	5	8	3	5	3	0

上段：回答数、下段：回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

2 次の各項目について、「県立高等学校のさらなる特色化に向けた具体策」として重要であると思いますか。

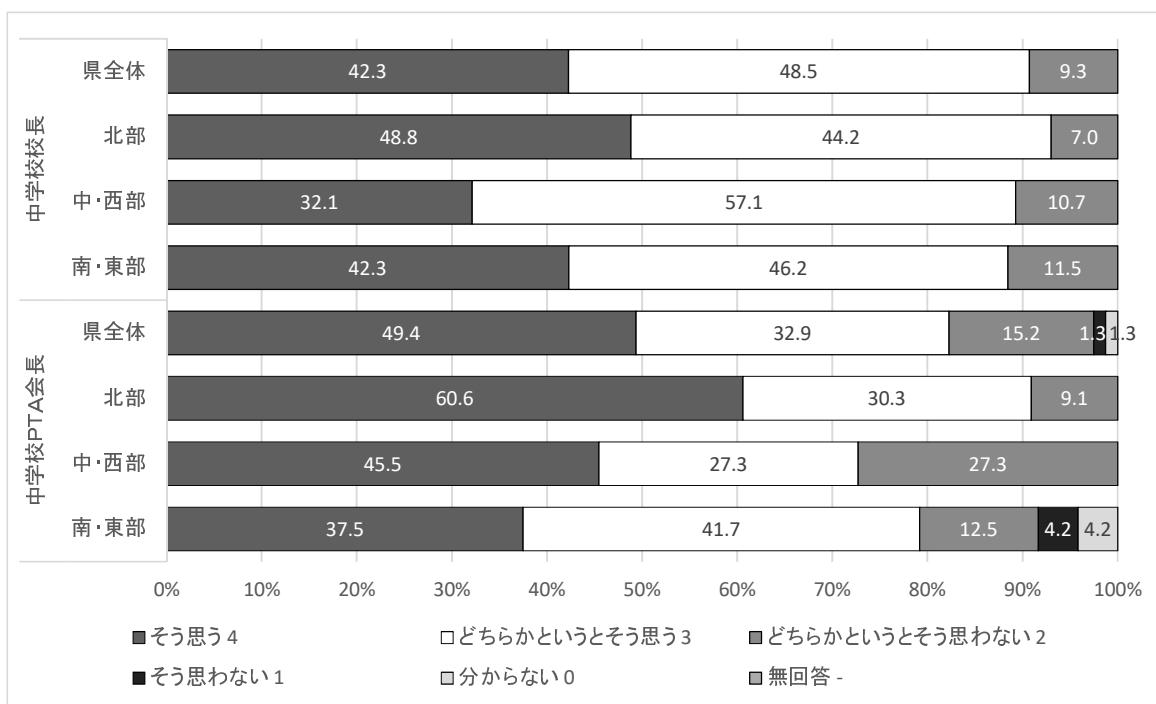
- (1) 将来、国際社会で活躍する人材を育成するために、豊かな語学力やコミュニケーション能力、異文化理解の精神等を身に付けることができるよう、外国語や国際理解に関する学習を充実させること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、約90%以上が「外国語や国際理解に関する学習の充実」を望んでいる。特に北部において割合が高い。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、80%以上が「外国語や国際理解に関する学習の充実」を望んでいる。特に北部において割合が高い。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と思う 3	どちらかという と思わない 2	そう思わない 1	分からない 0	無回答 -
中学校校長	県全体	97	41	47	9	0	0	0
	北部	43	21	19	3	0	0	0
	中・西部	28	9	16	3	0	0	0
	南・東部	26	11	12	3	0	0	0
中学校PTA会長	県全体	79	39	26	12	1	1	0
	北部	33	20	10	3	0	0	0
	中・西部	22	10	6	6	0	0	0
	南・東部	24	9	10	3	1	1	0

上段：回答数、下段：回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

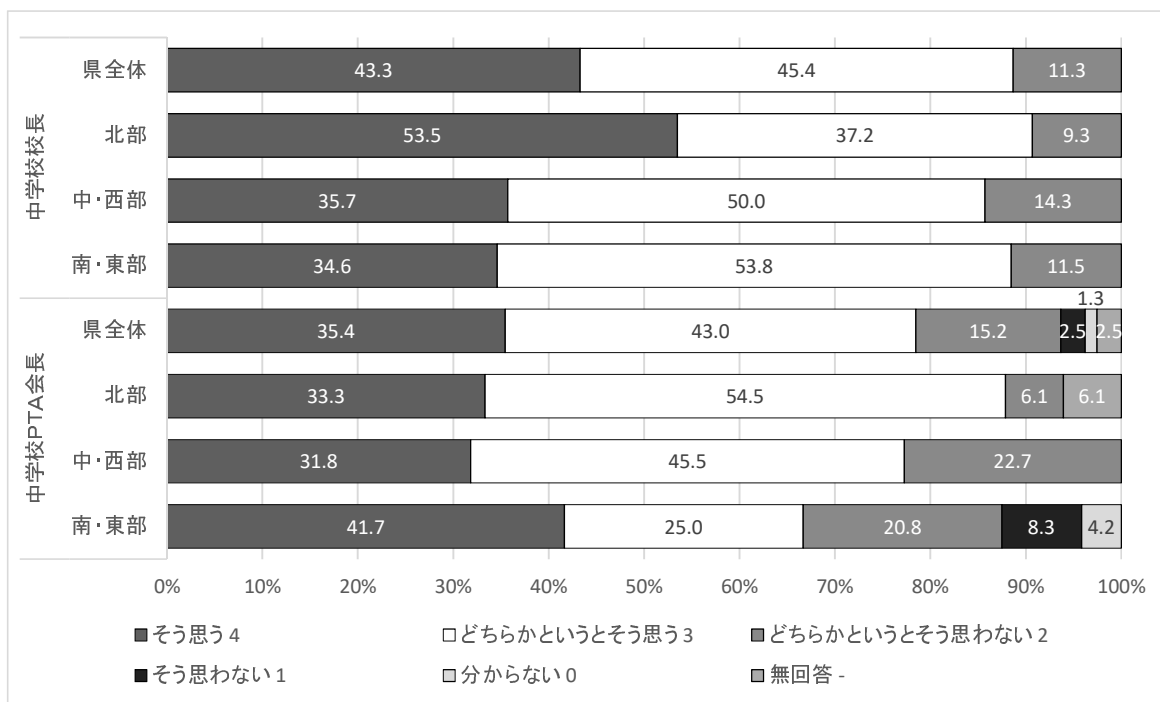
(2) 高度情報化に対応する人材を育成するために、より専門的な情報通信技術に関する学習を充実させること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、約90%が「情報通信技術に関する学習の充実」を望んでいる。特に北部において割合が高い。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、75%以上が「情報通信技術に関する学習の充実」を望んでいる。北部でその割合が高く、南・東部で低い。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と そう思う 3	どちらかという と そう思わない 2	そう思わない 1	分からない 0	無回答 -
中学校 校長	県全体	97	42	44	11	0	0	0
	北部	43	23	16	4	0	0	0
	中・西部	28	10	14	4	0	0	0
	南・東部	26	9	14	3	0	0	0
中学校 PTA 会長	県全体	79	28	34	12	2	1	2
	北部	33	11	18	2	0	0	2
	中・西部	22	7	10	5	0	0	0
	南・東部	24	10	6	5	2	1	0

上段: 回答数、下段: 回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

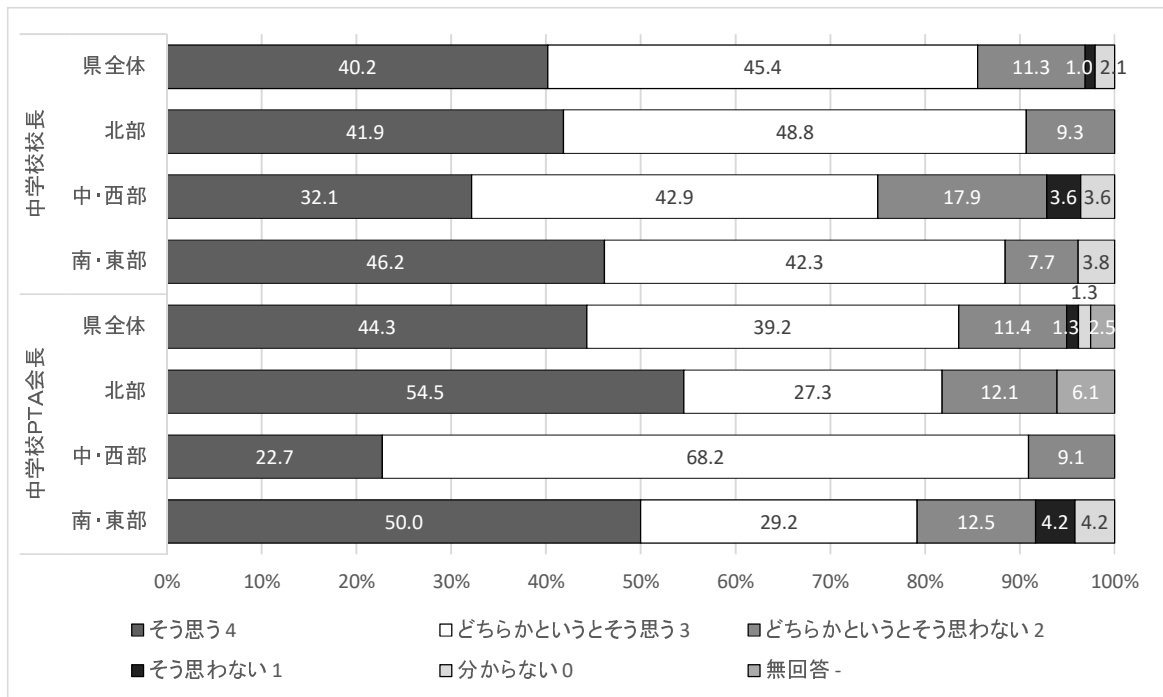
- (3) 将来の地域を支える人材を育成するために、地域について学ぶ機会や地域の課題解決に向けて貢献する機会を充実させること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、85%以上が「地域について学ぶ機会や地域の課題解決に向けて貢献する機会の充実」を望んでいる。特に北部が高く90%を超えている。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、80%以上が「地域について学ぶ機会や地域の課題解決に向けて貢献する機会の充実」を望んでいる。特に中・西部が高く90%を超えている。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と 思う 3	どちらかという と 思わない 2	そう 思わない 1	分 か ら な い 0	無 回 答 -
中 学 校 校 長	県全体	97	39	44	11	1	2	0
	北部	43	18	21	4	0	0	0
	中・西部	28	9	12	5	1	1	0
	南・東部	26	12	11	2	0	1	0
中 学 校 P T A 会 長	県全体	79	35	31	9	1	1	2
	北部	33	18	9	4	0	0	2
	中・西部	22	5	15	2	0	0	0
	南・東部	24	12	7	3	1	1	0

上段: 回答数、下段: 回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

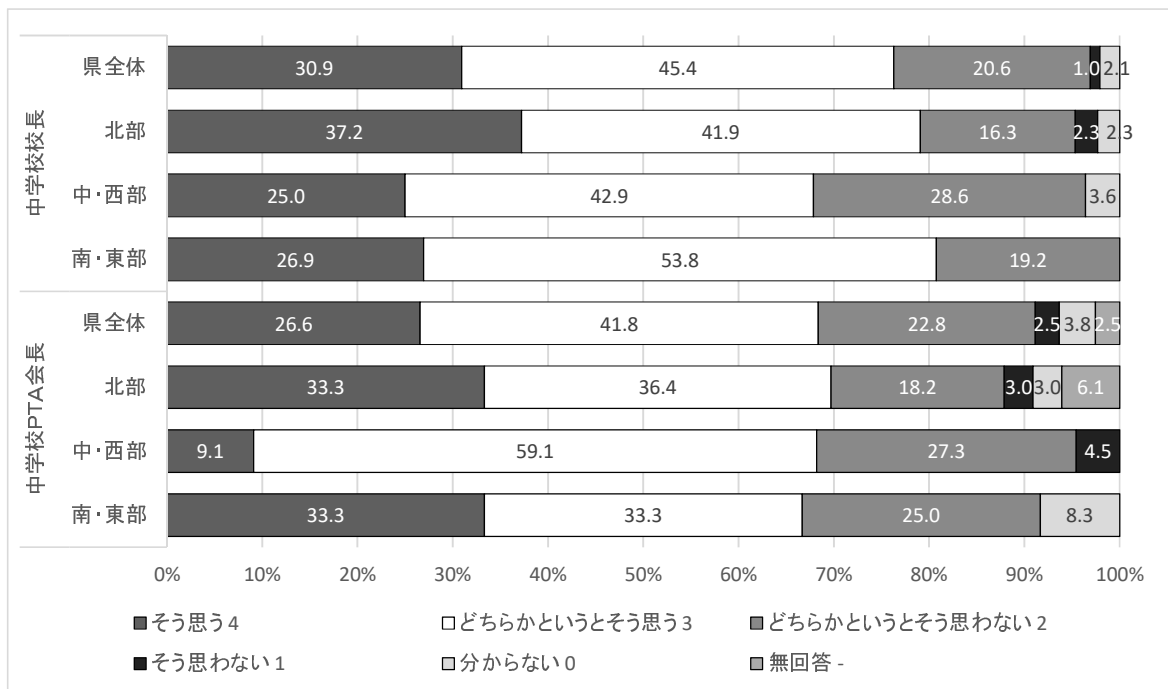
(4) 本県の芸術文化を支える人材を育成するために、芸術文化を学ぶ学科やコースを充実させること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、75%以上が「芸術文化を学ぶ学科やコースの充実」を望んでいる。南・東部が高く80%を超えている。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、65%以上が「芸術文化を学ぶ学科やコースの充実」を望んでいる。北部、中・西部、南・東部による差は、ほとんど見られない。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と 思う 3	どちらかという と 思わない 2	そう思わない 1	分からない 0	無回答 -
中学校校長	県全体	97	30	44	20	1	2	0
	北部	43	16	18	7	1	1	0
	中・西部	28	7	12	8	0	1	0
	南・東部	26	7	14	5	0	0	0
中学校PTA会長	県全体	79	21	33	18	2	3	2
	北部	33	11	12	6	1	1	2
	中・西部	22	2	13	6	1	0	0
	南・東部	24	8	8	6	0	2	0

上段：回答数、下段：回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

3 次の各項目について、「県立高等学校の適正配置に関する考え方」として重要であると思いますか。

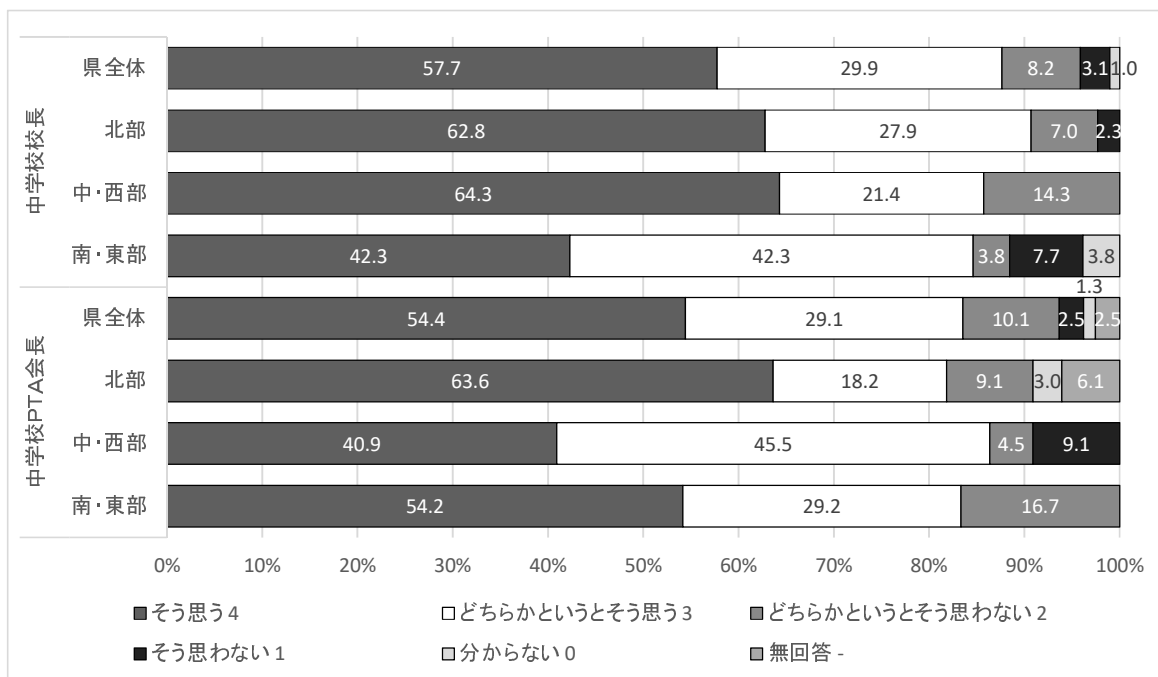
(1) 生徒数の増減を踏まえ、各地域にバランスよく学校を配置すること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、85%以上が「生徒数の増減を踏まえ、各地域にバランスよく学校を配置すること」を重要として捉えている。特に北部で高く90%を超えている。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、80%以上が「生徒数の増減を踏まえ、各地域にバランスよく学校を配置すること」を重要として捉えている。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と 思う 3	どちらかという と 思わない 2	そう思わない 1	分からない 0	無回答 -
中学校 校長	県全体	97	56	29	8	3	1	0
	北部	43	27	12	3	1	0	0
	中・西部	28	18	6	4	0	0	0
	南・東部	26	11	11	1	2	1	0
中学校 PTA 会長	県全体	79	43	23	8	2	1	2
	北部	33	21	6	3	0	1	2
	中・西部	22	9	10	1	2	0	0
	南・東部	24	13	7	4	0	0	0

上段: 回答数、下段: 回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

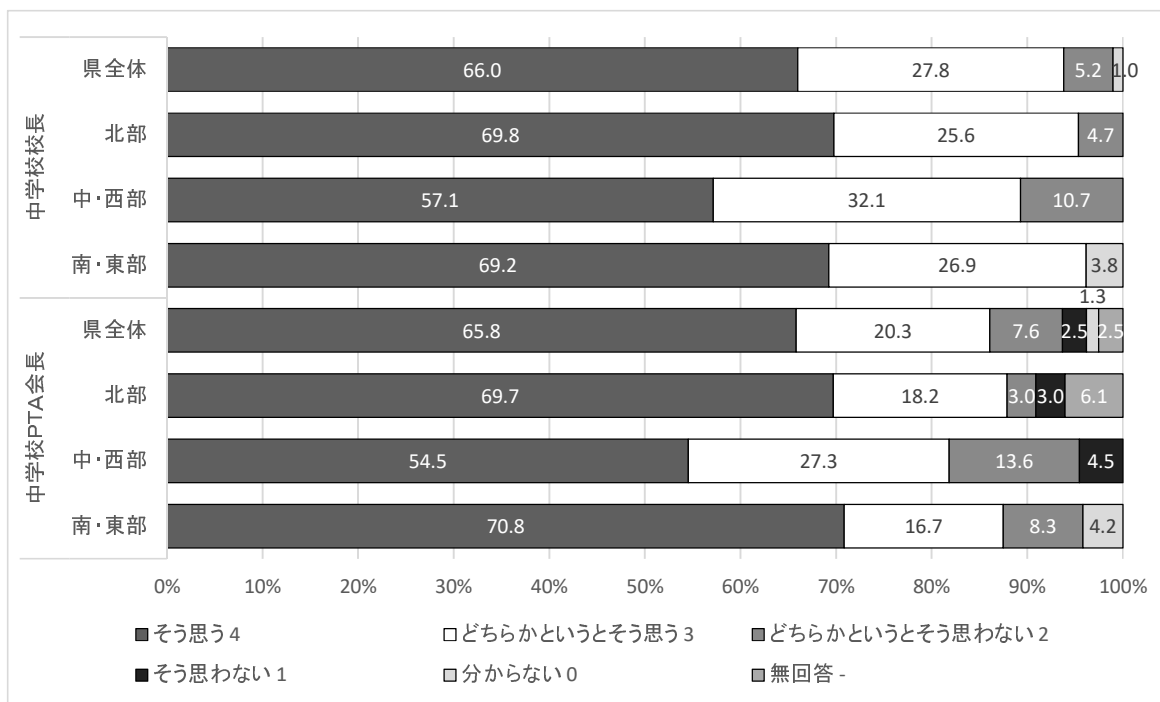
(2) どの地域に居住する生徒にとっても、幅広い選択肢を確保すること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、90%以上が「どの地域に居住する生徒にとっても、幅広い選択肢を確保すること」を重要として捉えている。特に北部と南・東部が高い。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、85%以上が「どの地域に居住する生徒にとっても、幅広い選択肢を確保すること」を重要として捉えている。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と 思う 3	どちらかという と 思 わ な い 2	そう 思 わ な い 1	分 か ら な い 0	無 回 答 -
中学校 校長	県全体	97	64 66.0	27 27.8	5 5.2	0 0.0	1 1.0	0 0.0
	北部	43	30 69.8	11 25.6	2 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	中・西部	28	16 57.1	9 32.1	3 10.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	南・東部	26	18 69.2	7 26.9	0 0.0	0 0.0	1 3.8	0 0.0
中学校 PTA 会長	県全体	79	52 65.8	16 20.3	6 7.6	2 2.5	1 1.3	2 2.5
	北部	33	23 69.7	6 18.2	1 3.0	1 3.0	0 0.0	2 6.1
	中・西部	22	12 54.5	6 27.3	3 13.6	1 4.5	0 0.0	0 0.0
	南・東部	24	17 70.8	4 16.7	2 8.3	0 0.0	1 4.2	0 0.0

上段: 回答数、下段: 回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

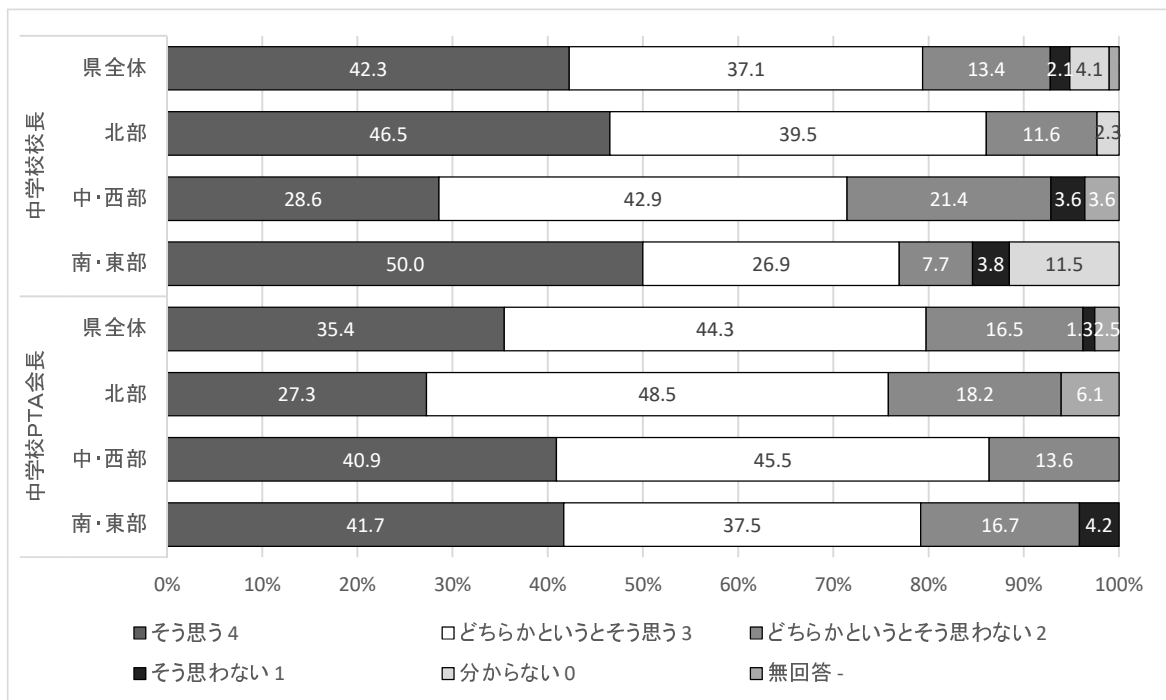
(3) 各学校・地域の実情に応じて、特色を発揮した学習活動ができるよう規模に配慮すること

○中学校校長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、約80%が「特色を発揮した学習活動ができるよう規模に配慮すること」を重要として捉えている。特に、北部においてその割合が高い。

○中学校PTA会長

県全体では、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、約80%が「特色を発揮した学習活動ができるよう規模に配慮すること」を重要として捉えている。



		回答者数	そう思う 4	どちらかという と 思う 3	どちらかという と 思 わ ない 2	そう 思 わ ない 1	分 か ら な い 0	無 回 答 -
中学校 校長	県全体	97	41	36	13	2	4	1
	北部	43	20	17	5	0	1	0
	中・西部	28	8	12	6	1	0	1
	南・東部	26	13	7	2	1	3	0
中学校 PTA 会長	県全体	79	28	35	13	1	0	2
	北部	33	9	16	6	0	0	2
	中・西部	22	9	10	3	0	0	0
	南・東部	24	10	9	4	1	0	0

上段：回答数、下段：回答率(%) [小数点第2位を四捨五入]

自由記述欄

- 1 次の各項目について、「県立高等学校の特色化の方向性」として重要であると思いますか。
- (1) 職業に関する科目が充実しており、専門的な技術や資格が取得できること
 - (2) 多様な科目が開設されており、興味や関心のある事柄を学べること
 - (3) 生徒の目指す進路と明確に結びついた類型・コースが設置されており、基礎的な事項を幅広く学べること
 - (4) 時間割が各自柔軟に組めるなど、自分の生活スタイルやペースに合わせて学べること

【専門学科の在り方】

- ・普通科のコース選択よりは、専門性のある学科（例えば情報に特化）学校をつくってもよいのではないか。（北部・校長）
- ・多様なニーズに対応していくことは重要であるとする。（北部・校長）
- ・少子化にともない、地域性を生かした科目等を取り入れることもよいのではないか。（北部・校長）
- ・「看護・福祉・情報・外国語」など次代に必要な学科の増設。（北部・校長）
- ・北部の生徒・保護者は普通科中心の進路選択となっている。職業科の施設の充実・進路保障などをもっとアピールし、進路選択の幅を広げて欲しい。（北部・校長）
- ・特色化という意味においては、体育分野、音楽分野、芸術分野、国際分野等、その学校に進学すれば、自分の得意を生かせる学校がもう少し多くなればと思う。（中部西部・校長）
- ・職業のスキルを身につけ、就職に直結したコースを更に充実していただきたい。（南部東部・校長）
- ・現在社会のニーズに応えるべく、看護や介護、保育やプログラミングなどに特化した学科やコースがあればと思う。（南部東部・校長）
- ・より一層専門的な技術や資格が取得できますようお願いします。（南部東部・校長）
- ・将来の社会・世界に順応していける（A Iによる社会構造の変化）教育を推進してほしい。（中部西部・校長）
- ・私達は将来人手不足になると考えられる職業に対する専門的科目の増設が必要と考える。グローバル化も大切ですが、日本の資源である農業、最先端工業系、サービス、医療などの専門科目など必要と考える。（中部西部・PTA会長）
- ・工業系は全国と比較して下回っているため、充実させる方向で検討願いたい。（南部東部・PTA会長）
- ・金融、ファイナンスの知識を得る科目がもっと必要。（中部西部・PTA会長）
- ・確実に仕事につながる専門知識を得られる高校のニーズは、今後高まると思われます。中途半端な専門知識にならない教育を望む。（南部東部・PTA会長）
- ・専門的に学ぶなら基礎は非常に大切だと思う。重視してほしい。（南部東部・PTA会長）
- ・高校卒業後の進学率が80%を超えている現状から、専門的な技術・資格は上級の学校において習得する傾向にあると考える。就職する生徒においても現状では必ずしも所属学科に関連する企業への就職とはなっておらず、また入学時の学科選択においても学力のみで選択していることが多々あると考える。所属学科に興味・関心があって所属している生徒は数少ないと考える。よって高等学校においては、あまり専門的ではなく広範囲に学べるような環境、例えば現状では建築科と土木科に分かれている学科を建設科とする、など大きな枠で学べるような環境が必要だと考える。（南部東部・PTA会長）

【特色化の推進】

- ・現在の高等学校の特色化のねらいと方向性、目指す生徒像、教育課程などの課題と改善点を示してほしい。(南部東部・校長)
- ・生徒の将来に役立つカリキュラム編成が充実した学校の在り方を考えてほしい。(南部東部・校長)
- ・「特色化」は大切なことだが、一方で普通科の充実も同様に重要なことだと思う。(北部・校長)
- ・生徒のニーズや特色化における受験生の偏りへの対応や配慮。(南部東部・校長)
- ・特色化は必要だと思うが、“主流”ではない方がよい。(中部西部・PTA会長)
- ・できる限り各高校に特性があり、選ばれる高校となる努力が必要。奈良高校では取り入れられているようですが、進学校の3年生は、自分の進路希望に合わせて時間割を決めることができるようにする。(中部西部・PTA会長)
- ・興味・関心に応じたある程度の特色化は必要だと思うが、高校段階では幅広く基本的な知識や学力をつけることが大切。(中部西部・校長)
- ・高校は専門学校とは異なる位置づけだと思う。語学やコンピューター(AI)など、高校時代は幅広く学ばせたい。学生の実生活スタイルに合わせるのではなく、学生が合わせるべき。(南部東部・PTA会長)
- ・県立高等学校普通科は特化せず、その役割は、高専や商業高校に委ねるべきと考えます。(中部西部・PTA会長)

【中学生の進路選択】

- ・生徒が将来に向けた夢の実現システムが整備されていることは大変意義深いことである。但し、その為の前段階である中学校での学び方は、どう改善、準備されるべきであるのかの吟味が足りていないことを懸念する。(北部・校長)
- ・特色化を進める理由を明確にしてほしい。高校進学後の動向を見ると、就職率が減少する一方で、大学進学率は上昇している。このことは、子ども達は県立高等学校に就職するための技術や資格を取る為ではなく、進学するための学力をつける為に入学してくると捉えることができるのではないかと。(北部・校長)
- ・15才の中学校3年生の時点でどれくらいの生徒が「高等学校の特色」と「自分の将来」とをつなげることができるのか。(中途退学した生徒の経験から)(北部・校長)
- ・進路選択時に職業コースを選択することで先が限定されるので敬遠し無難に普通科に進む場合も多い。(南部東部・校長)
- ・現状では、小・中学校の義務教育課程の中で15歳迄に、自身の将来の進路や職業観等を明確に持てる子どもが、いったいどれほど存在するのだろうかと思う。高等学校の特色化ということで、県立高校では様々なコース分けが進んでいるが、中学卒業時の子どもたちの実情に照らして適切なコース分けとなっているのかは疑問。(北部・PTA会長)
- ・県立高校で卒業時に専門的な技術や資格が取得できることは費用面などの事を考えるとありがたいが、14・15才で将来の職業を明確に決めている子どもは少ないと思うので、より専門的に学びたいと思えば、大学や専門学校へ進学し、学べばいいと思う。(北部・PTA会長)
- ・専門性を重視していく方向性は仕方がないが、あまり特化されると中学生やその保護者は15才で将来の仕事まで決まるように錯覚することや、進学後進路変更しづらいことが気になり得る。(南部東部・校長)
- ・特色化が進み、より魅力ある学校になればと思うが、特色化が進めば進むほど、より選びにく

い学校にならないか心配している。(南部東部・校長)

- ・職業は色々な職があり、高校での専門的に教えるのは限度がある様に思う。まずは、どの様な職業があるのか学校で教える方が先だと思います。中学生での将来的な事は、少し早いのではないか。職業に対する意識と興味を持ってもらう授業を。(中部西部・PTA会長)

【高校の特色に関する発信】

- ・特色化の方向性、選択できる大学や将来の職業への展望などの情報を詳細に発信してほしい。
- ・特色がよくわかる学科名、コース名を付けた方がよい。詳しい説明を書かないとわからないコースや、その説明を聞いても覚えられないようなコース名がある。(北部・校長)
- ・特色化の中身があまり見えてこないのも実際である。(南部東部・校長)

【高等学校における柔軟な教育課程】

- ・単位制、定時制、全日制の間の進路変更が可能な制度はできないか。(再受験ではなく)(中部西部・校長)
- ・高校3年間で完結させるのではなく、2年生から選択できるなどの柔軟性を持って、進学をも念頭に入れる。(北部・PTA会長)
- ・決めた進路へ向けた学習は必要だと思いますが、その中でも進路を変える様な学科の設置、コースの変更対応も出来る様、柔軟に対応して欲しい。(北部・PTA会長)
- ・入学後にコース変更(同一校内で)が可能となる様な制度が望ましいと思います。(北部・校長)
- ・発達障害をもつ子どもが安心して学べること。(北部・校長)

【高校におけるキャリア教育】

- ・キャリアについて考えるための幅広い知識を得られる授業、カリキュラムがほしい。(大学選びや進路について、判断ができるように。)(北部・校長)
- ・県外就職率がトップの本県において、キャリア教育とインターンシップの充実が大切。県内企業と高校との連携が必要。(北部・校長)

【大学入試制度との関係】

- ・今後の大学入試制度に対応出来るよう、各県立高校独自の特色を生かし実践してほしい。(北部・校長)
- ・興味ある分野を学ぶことも大切ですが、未知の分野にも出会えるよう、さらに可能性が広がるような時間をすごしてほしい。(中部西部・PTA会長)
- ・特化したがために、進学の負担や妨げとならない配慮があってほしい。大学も推薦による門戸を拡大しているので、マッチングするよう進めていただきたい。(北部・PTA会長)

【大学教育について】

- ・大学教育と呼べる内容が、現在の大学でおこなわれているのか疑問。単に社会に出ることを先のぼしにするような大学制度にならないよう、進路指導を深めてほしい。(中部西部・校長)
- ・各県立高等学校の学力レベルに応じた、卒業後の進路目標を明確にし、進学・就職へのプログラムを組んで欲しい。様々な大学が乱立する中、(4)のようなスタイルは、生徒のモラル低下

を招く要因であると考えられ、大学での教授が今日以上に問題となりそうに思える。(北部・P T A会長)

【地域的な課題認識】

- ・特色は、時代の指針であることは言うまでもないが、南部地域から北部への通学は極めて困難である。(南部東部・校長)
- ・過疎地区における教育を充実させ、その地域を将来支える人材を育成できる学校。(北部・校長)
- ・序列化があり、「北高南低」の解消。(南部東部・校長)
- ・南部地域の高校数を極力減らさないこと。設備・施設面での充実をはかること。(南部東部・P T A会長)
- ・通学区域の改善。(南部東部・P T A会長)

【その他】

- ・すべての学科・コースで基礎的な知識の習得はもちろんだが、これからの生きる力を考えて、思考力・判断力・コミュニケーション力を培うことができる学習形態が必要である。(北部・校長)
- ・県外からスポーツに優れた選手を集めるような制度は反対。県内の生徒を育てる方法を考えてほしい。(北部・校長)
- ・少子化に伴い、現状の検証は必要であると考え。(南部東部・校長)
- ・県立高校に通いながら+ α で専門学校で学べるような技術を身につければよい。(北部・P T A会長)
- ・多様な取組をサポートする教員を増やすことを検討。(南部東部P T A会長)

2 次の各項目について、「県立高等学校のさらなる特色化に向けた具体策」として重要であると思いますか。

- (1) 将来、国際社会で活躍する人材を育成するために、豊かな語学力やコミュニケーション能力、異文化理解の精神等を身に付けることができるよう、外国語や国際理解に関する学習を充実させること
- (2) 高度情報化に対応する人材を育成するために、より専門的な情報通信技術に関する学習を充実させること
- (3) 将来の地域を支える人材を育成するために、地域について学ぶ機会や地域の課題解決に向けて貢献する機会を充実させること
- (4) 本県の芸術文化を支える人材を育成するために、芸術文化を学ぶ学科やコースを充実させること

【全般的な意見】

- ・将来的に現存する職業がどのように変化していくのかを見据えた県立高等学校の方向性を探ることが大切になってくる。(中部西部・校長)
- ・介護・看護に関わる教育(特色化)の視野に入れた学科の増設を願う。高校卒業の進路希望も増加傾向にあるため。(北部・校長)

- ・複雑化する社会に対応する人材を育成するために、福祉防災、環境、人権問題などを探求する学科を充実させていただきたい。(中部西部・校長)
- ・(2)(4)は、基礎学力と思うので、重点化しない。(1)は、グローバル社会に対応するためにも、各校最低限必要と考えるが、特化する高校では、さらに重要となってくる。(3)は、道徳的な考えからも、地域とのつながりを大切にする心を持って欲しい。(中部西部・PTA会長)
- ・高校教育をさらなる社会的な変化。要とする生徒への適切な支援や対応に向けた取り組み。(南部東部・PTA会長)
- ・実際の生活(の課題)に生かせる知識や経験が積めるような、座学だけではない教育を求める。(南部東部・PTA会長)
- ・(1)～(4)の事柄は、勉強したければ、大学や専門学校へ進学し、学ばばいいと思う。専門的な教員を揃える事が出来るのか不安です。(北部・PTA会長)
- ・従来からある工業・商業系の専科に加え、高円高校の芸術コース、また今後のIT化時代に向けたプログラミング専科などは必要であると思われるが、他の特色化・コースについては、逆に子どもたちの将来の選択肢を狭めてしまっているようにも思える。現状においては、さらなる特色化を図るより(全国的にみて普通科の率が高いとしても)普通科の定員を確保することが必要に思う。高校時代にじっくり進路について考えられるような有り様を求める。(北部・PTA会長)
- ・状況に応じて変化するのでは無く、継続性が重要であると考えます。(中部西部・PTA会長)
- ・国際科・情報科・芸術科などは、今の形態で良いと思う。普通科がどのように特色を出すかだと思ふ。(北部・校長)
- ・放課後の活用を考えてはどうか。部活を1日offにしてその時間帯に国際理解、情報地域、芸術などを学べる機会とするなど、カリキュラム外の活動としてもいいのでは。(中部西部・校長)
- ・高校進学段階ではっきりとした将来の方向性を持っている生徒は少ない。コース・学科を特色化することで、敬遠する生徒も出てくることが予想される。普通科はそのまま残しておいて、興味・関心に応じて選択できる科目の幅を広げた方がよいと思う。(中部西部・校長)
- ・(3)について、小中で充実させるべきと考える。(4)について、大学で良いと思う。高校は直接生活(職業)に直結する方がよい。(中部西部・校長)
- ・問1でお答えしたように、上級の教育機関や就職先において専門的な技術・資格は取得されると思う。教育内容を細分化・専門化するのではなく、卒業後に学ぶ様々な事柄に関して興味関心が持て、より深い理解を得られるように基礎的で広範囲な知識を身に付けることができるような環境を整えることが大事だと考える。(南部東部・PTA会長)
- ・「特色」という言葉が多く使われますが、中学校卒業時には将来の事が具体化されている生徒がどれだけ居るのかといった事を数値化して受け入れを設定しなければならない。普通科に合格しないかもしれないから、特色選抜どれも受けて特色に合格したから本望ではないがそちらに通うといった事例もあるようだ。特色を増やすよりも、普通科の枠を増やし、県全体の底上げを考える方がよい気がする。(南部東部・PTA会長)
- ・日本でいくら語学を教えても限界がある。交換留学などを充実させる。奈良の文化・歴史は比類なきもの。芸術はいわずもがな。様々な形で学生に伝えるべき。コンピュータに関しては、基礎で良い。マニアはかつてに勉強する。(南部東部・PTA会長)
- ・各学校で、特色ある目標掲げ、将来を見据えた教育、個々の特性を引き出させる教育、社会人として生きていける教育等、人としての価値を高かめてほしい。(北部・校長)
- ・生徒が自己実現に向け粘り強く努力する心の強さを育てる学校づくりをしてもらいたい。(北部・校長)
- ・不登校生徒の受け入れの充実。「学び直せる」機会。(北部・校長)

- ・子どものたちの進路選択肢がより深く充実することは大変意義深い。但し、子どもは「こうでないとならない」という意識を強く抱いてしまうことは危険を感じる。子どもは立ち止まり、深く考え直したり、見直すチャンスを持つこと（持てる環境）を与えてないと、ドロップアウトした子どもの心は、逆に大きな痛手を受けることにもつながりかねない。（北部・校長）
- ・特色化を受験し、希望した学校に入れない子供の受け入れをどうするのか。（中部西部・PTA会長）
- ・五條高校賀名生分校の全国募集に向けた取組の継続。（南部東部・PTA会長）
- ・本県にしかない特色を是非前に出してほしい。国際化や情報化では特色とは言い切れない段階になってきていると思われる。（北部・PTA会長）

【グローバル化への対応】

- ・外国語教育の充実させることは、今後大切になると考えます。（中部西部・校長）
- ・国際社会で活躍する人材育成には、豊かな語学力やコミュニケーション能力、異文化理解も大切だと思うが、日本人としてのアイデンティティの育成こそ大切であると思う。（中部西部・校長）

【高度情報化への対応】

- ・高度化する技術には、基礎研究分野が重要であると思う。技術の根本を深く理解する事で汎用性、適応応用が可能であると思う。ただし、県内、パソコンを利用できない大人が多すぎる事から、学校での個人タブレット利用などによる、電子辞書、計算機の代用なども検討して頂きたい。（北部・PTA会長）
- ・科学技術の進展に寄与できる人材を育成するために、理数教育に関する学科やコースを充実させること。（北部・校長）
- ・時代のニーズに合わせ、コンピュータ等の情報処理に関する内容の学科をより充実させ、よりスキルの高い学習を取り入れてもらいたい。（北部・校長）
- ・情報通信など、日進月歩で技術革新がすすむ分野では、常に新しい設備施設への更新が可能なような予算的なうらづけが不可欠となると思う。（北部・校長）
- ・情報通信技術に関して、生徒の自習学習支援として使えるようにすることや、産業教育の実習時の支援として使えるようにすることなど、より広範囲に底上げすることも必要だと思います。使用範囲の母数を広げることで、より技術力の高い集団も生まれやすくなると考えられます。まずは、教員が会議、教務、校務、クラブ活動で使えるような情報通信技術の利用を検討してはどうでしょうか。（南部東部PTA会長）
- ・トークンエコノミーの今後の発展を見越した学習。（中部西部・PTA会長）

【地域を支える人材づくり】

- ・特色化をすすめるのであれば、そこで学んだことを活かせる場が県内にあることが大切だと思う。なかなか15歳で将来の職業を決めて向かっていくことは難しいが、具体的に思い描ける職場があれば、それも可能かと思う。（北部・校長）
- ・人口減少、少子高齢化に伴う地域の衰退を食い止める為にも、地域を支える人材育成はかなり重要になると思います。力を入れていただきたい。人材流出も食い止めなくてはならないから。（北部・PTA会長）
- ・グローバル化への学習対応は必要だと思いますが、地域を支える人材の育成へも同様に力を入

れていくべきだと思います。(現在はグローバル対応へ偏っている様に思う。)(北部・PTA会長)

- ・県内に就職できるように進路の整備。(北部・PTA会長)
- ・奈良県が魅力ある県になれるよう、高校生にも考え、体験してほしい。(中部西部・校長)
- ・(例)大阪府立農芸高校や三重県立相可高校(まごの店)など。地域の方々と共にコミュニケーションをとり、勉強し、又その活動をマスコミを通じて県内外に発信し、多方面にアピールも必要だと思います。奈良文化高校の看護科には興味があります。(中部西部・PTA会長)
- ・本市における五條高校、更には全国募集に向けた賀名生分校は、南部の経済効果をも生み出すベースになると思うので、存続をお願いしたい。(中部西部・校長)
- ・限界集落が増えつつある状況の中、地域を支える人材の育成は非常に意義深く、また、喫緊の課題となっています。地域を支える人材づくりの重要性を強く感じます。(中部西部・校長)
- ・奈良県の地域遺産を今以上に広く動かす教育を願います。(中部西部・校長)
- ・高校で地域を支える人材育成を重視すると視野が狭くなるのではないかと感じます。知っておく程度でも良いのではないのでしょうか。「さらなる特色化」とは、即戦力の人材確保よりも専門分野の人材育成の基礎を重視する場であって欲しい。(南部東部・PTA会長)

【芸術文化を支える人材づくり】

- ・芸術に関しては、県内での後継者問題を抱える様々な職からピックアップして、育てるといった取組。(中部西部・校長)
- ・感性を育てる方向も必要と考える。手に職をつける、芸は身を助けるという方向も大切にしたい。(北部・校長)
- ・県内の地域に残る伝統文化芸能の後継者となるような教科を設定し、単位取得できるようにする。(北部・校長)

3 次の各項目について、「県立高等学校の適正配置に関する考え方」として重要であると思えますか

- (1) 生徒数の増減を踏まえ、各地域にバランスよく学校を配置すること
- (2) どの地域に居住する生徒にとっても、幅広い選択肢を確保すること
- (3) 各学校・地域の実情に応じて、特色を発揮した学習活動ができるよう規模に配慮すること

【バランスのよい配置】

- ・全県的に、バランス良く進めて欲しい。統廃合される学校の在校生・保護者・地域への配慮も必要と思われる。(北部・校長)
- ・県内全域を充分視野に入れた配置を十分検討願いたい。(北部・校長)
- ・奈良県は全体的に見て、北高南低の傾向にあるためバランスがよくない。学力の低い生徒が定員割れをする、山間部の学校に集まることになる。(北部・校長)
- ・県内の地域別に配置を考えると共に、人口の密集を考慮した配置が望ましいと思える。(北部・校長)
- ・人口分布の関係で奈良県下の高校は北部・中部西部・南部東部の3ブロックに分かれていると思うが、地理的な観点から見ると奈良県の「ヘソ的」な位置にある五條市以北に、十津川高校

以外の32の高校が集中し、奈良県の半分にあたる南部には十津川高校1校しかない現状を考えて、十津川高校の存続を希望する。(南部東部・校長)

- ・生徒数減少に対応した高校の配置。(南部東部・PTA会長)
- ・生徒数の減少により、高等学校の再編成は必要だと思うが、生徒にとって幅広く進路選択ができるようにしていただきたい。(北部・校長)
- ・北部と南部で学力の差が違いすぎる。各地域にまんべんなく配置して欲しい。(北部・PTA会長)

【どの地域の生徒にとっても選択肢を確保】

- ・人口の多い地域とそうでない地域で、学校を選んで通学できる環境を整備することが大事。(北部・校長)
- ・山間部の高校について、地域の歴史的な背景や伝統、地域の教育力の維持などを考え、安易に統廃合するよりは、規模を縮小してでも地域に根ざした学校づくりの努力を続けるべきだと思います。(北部・校長)
- ・生徒数基準は大切であるが、現存する南部地域の各校の伝統、あるいは培われてきた文化がある以上、これまで同様大切に維持願いたい。(南部東部・校長)
- ・南部地域の中学生減少の中、通学圏を考えた高校の配置、募集定員の確保を希望する。(南部東部・校長)
- ・通学の利便性も含んで、県立学校を適正配置が大切。(地域在住の生徒が通学できる場所に)学校が必要ではないか。各地域にバランスよく。(南部東部・校長)
- ・近年バスの運行本数が減り、保護者負担(時間的・金銭的)が大きくなっている。偏ったブロックでの縮小は避けていただきたい。(南部東部・校長)
- ・山間地域の高校にスクールバスを導入することは出来ないか。(南部東部・校長)
- ・生徒数だけを中心と考えると人口の少ない地域は学校数が減り、選択肢が少なくなる。また、バスを利用する場合の費用面の補助についても検討してほしい。(中部西部・校長)
- ・通学が困難な地域に対する寮制度の整備などの配慮が継続して必要。(中部西部・PTA会長)
- ・工・農・商の高校を北・中・南部地域に適正に配置するのは難しいですが、これらの高校も待つだけではなく、魅力ある高校となって、生徒を集める必要がある。多少通学に時間がかかっても、特色があれば生徒は集まる。地域性もあるので、学習規模、内容が変化するのは必要。(中部西部・PTA会長)
- ・とにかく南部地域の高校を減らさないこと。(南部東部・PTA会長)
- ・私の住んでいる地域では、一番近くの高校に通う場合も公共の交通機関の利用がむずかしく、親の送り迎えになる。通学だけで、子供の負担、親の負担になることも考慮して、適正配置を望む。(南部東部・PTA会長)
- ・人口動態だけではなく、地域性にも合わせた配置が必要。(南部東部・PTA会長)
- ・南部に学校が少ないので、選択肢が限られる。(南部東部・PTA会長)
- ・地域間の実情なりではなく、IT等で学習活動のバラツキを補完するなど、方法はいくつかあるのではないか。(北部・PTA会長)
- ・吉野郡(東)の生徒は、多くが橿原市、桜井市、高田市等に進学しており、その現実と県が考えている3地域が合致していない。(南部東部・校長)

【特色を発揮できる規模】

- ・学校毎の入学者数は決まっていますが、学科やコース毎の受検者数、受検者の成績や意欲、将来性も加味して、募集人数とは増減があっても良いので、合格者数を入試結果で調整できて良いのではないかと。(北部・校長)
- ・1学級の定員を普通科においても減らしてほしい。学校数を減少させずに定員にゆとりをもたせてほしい。(中部西部・校長)
- ・南部の県立高等学校については、学級数が減少しても、高校は残してほしい。(南部東部・校長)
- ・(2)について、そうであってほしいが、現実的にはいろいろ無理があると思う。(南部東部・校長)

【その他】

- ・パブリックコメント等も参考に進めていただきたい。(北部・校長)
- ・統合しても既存の校舎は残し、教員が校舎間を移動し、生徒の多様な学習機会を保障する。また、自然生活体験を通し学習意欲を喪失した生徒が学び直す学校を配置してもらいたい。(北部・校長)
- ・公立高校の定員を減らさないで、公立全入をめざしてほしい。(北部・校長)
- ・ほぼ100%進学の時を迎え、高等学校の特色化よりも「義務化」に向けた県立高等学校の在り方について検討する必要があると考える。(北部・校長)
- ・奈良の教員希望の醸成が必要ではないか。高田高校と平城高校の特色選抜制度がなくなったが、制度は是非必要のように思う。高校から教員希望している生徒への夢を叶えるため、特色ある選択コースがあればよいのにと感じる。(中部西部・校長)
- ・定時制、通信制の充実。特別支援教育分教室の拡充。(中部西部・校長)
- ・県立について、人的(人数)には、特支にかたよりすぎすぎていると思う。(中部西部・校長)
- ・今後の社会的にニーズに合った学科の設置等も含め、多方面から検証し、進めることが必要だと考える。(南部東部・校長)
- ・過去の高校再編時は、校名さえも決まっていなかった状況で中学生が学校選択を迫られた。今回は、ゴールありきではなく、何もかも決定した段階で選択できるようにしてほしい。(南部東部・校長)
- ・時代の進展や多様なニーズに対応した魅力ある学科を持つ学校や総合学科や単位制高等学校など、新しいタイプの高等学校。(北部・PTA会長)
- ・奈良高校と平城高校の合併の話聞いたが、伝統的にも偏差値的にも、2校とも残してほしい。(北部・PTA会長)
- ・私学のような特進・進学などのクラス編成を用いる事で、一学校における教育ポテンシャルが向上すると思う。特に、市街地部への学校の集中→山間からの移住・人口の流出を抑制できるのではないかと。高等学校の適正配置とともに、学校内での学力差クラス配置は良いと思う。(北部・PTA会長)
- ・社会へ出て行かなければいけない子ども達なので、学力が低い子どもや問題を抱えている子どもを取りこぼさない様に、定員割れがあろうとすぐに廃校するのではなく、受け入れることができる学校は作っておいて欲しい。(北部・PTA会長)
- ・学校数を減らす事には反対です。幅広い学習レベルで生徒が希望する学校を選ぶ事が出来る様な配置を希望する。少子化にともなう生徒数の減少対応は、地域の活動等へ活用もするなどして対応出来ないのか。(北部・PTA会長)
- ・授業日数のあまりにも違う学科が同じ学校に混在するのは良くない。また、県内唯一設置の状態を避け、教員が異動でき、活性化されることを望む。(北部・PTA会長)

- ・出身母校が統廃合により無くなるのは、とてもつらい経験となる為、そういったことが無いように配慮頂きたい。(中部西部・PTA会長)
- ・個人的な意見になりますが、卒業生や親世代など、公立高校の統合・廃校による間違った考えによる偏見等、若干耳にする事もあります。(中部西部・PTA会長)
- ・南部の特徴を生かして、現在の高等学校を生かしていけると思う。例えば、温泉プールを生かし、全国でも希な冬でも水泳トレーニングが出来る水泳部の創設。全寮制で、明德義塾のような堅牢な部活動を充実させるのも良い。生徒が高校を選ぶ規準は、良い部活動の有無もあると思う。配置については、現在の状態で頑張ってもらいたい。(南部東部・PTA会長)
- ・現実問題として南部の過疎は進んでおり、現状維持もやっただと思う。地域に合った魅力をアピールし、生徒を集めてほしい。(南部東部・PTA会長)
- ・家庭に掛かる教育費は年々増加の傾向にある。家庭の状況に関わらず子どもが進路を選択できるように、高校の適切な配置を願う。(北部・PTA会長)
- ・奈良県南部振興計画と県南部の県立高校の配置問題は大きく関連があると思いますので、計画立案にあたり、審議検討を行っていただきたく思います。(南部東部PTA会長)